A09 石垣島の蚊棲息環境記載の試み —リモートセンシングの導入—

高木正洋[○]、津田良夫（長崎大・熱研）、杉山章（名古屋女大・公衆衛生）、
小野良夫（神戸大・農）、前川芳秀、後藤恵之輔（長崎大・工）、都野展
子、比嘉由起子、Charles Mwandawiro（長崎大・熱研）

Analysis of the mosquito habitat in Ishigaki Island by the remote sensing

M. Takagi, Y. Tsuda, A. Sugiyama, Y. Ono, Y. Maekawa, K. Goto, N. Tuno,
Y. Higa and C. Mwandawiro

石垣島野底で夜間に人囀及びドライアイストラップで採集される蚊の棲息環境を数値表現する試みとして、写真による分析に加えて衛星画像情報の分析を行った。蚊を採集した16地点を中心に、衛星画像情報である7種のバンドの数値を3サイズのユニット（4、10、16セル）について求め、数値変化の傾向から棲息環境の特徴を読みとろうとした。写真分析結果との整合性も検討した。その結果、どちらの方法も経験的に抱いている個々の環境のイメージを完全には表現しきれないが、少なくとも矛盾はなく環境記載のための情報として有効であろうと思われた。

A10 GISを用いた福島県西部地域のヒトスジシマカの分布要因の解析

二瓶直子、小林陸生、佐々木年則、栗原 毅（国立感染研・昆虫医科学）

Analysis on the distribution of *Aedes albopictus* in the western part of Fukushima Prefecture by GIS

Nihei N., Kobayashi M., Sasaki T. & Kurihara T.

気候の温暖化、交通網の整備、人口の都市集中等、近年の急速な環境変化によって、日本におけるデング熱媒介蚊ヒトスジシマカの生息適地（分布範囲）は北方や高地への移動が推測される。演者らは1997年および1998年に東北地方の同蚊の分布調査を実施した。特に福島県西部の主として会津盆地で会津若松市から会津高田・会津坂下町にかけて東西方向に分布する大きさの異なる集落で、小型容器における蚊幼虫の調査を行った。その結果と人口密度、植生、土地利用、集落、農業土地利用等の地理的条件との関係から、景観断面模式図を作成し蚊の分布の特徴を明らかにした。それを宇宙開発事業団（NASDA）より研究者向け配布を受けた当該地域およびその周辺のSPOT衛星画像で判読する可能性を検討している。また、地理情報システム（GIS）の一つである既存の土地利用情報システム LUIS（GRID TSUKUBA）および植生指数 NDVI の導入を試みている。